【進路と選択科目の学習・進め方】

皆さん、こんにちは。Z会進路指導担当の冨崎です。
夏休み、いかがお過ごしでしょうか。勉強に部活に青春の思い出作りに、充実した期間になると良いですね。

さて、高2の夏と言えば、進路決定においても大事な時期です。

「志望校は夏までに決めましょう」
「少なくとも文理・国公立までは必ず決めておきましょう」
「英数国の主要3教科に加えて理科地歴の勉強もボチボチ始めていきましょう」
「大学の合否は高2時点の学力で8割型決まるので悠長にかまえてはいられません」
etc

いずれも大学受験においては正論で、一度のみならず幾度となく耳にしたアドバイスではないかと思います。ただこうして文面にしてみると、大学進学をその技術面からのみ捉えたアドバイスのようにも思えます。

ジョージ・オーウェルや、日本の作家だと伊藤計劃さんあたりの描くディストピア小説とまではいきませんが、まるで未来のテクノクラート（技術官僚）を養成しようとする意図があるかのようなメッセージに聞こ

えて、かえって漠然とした不安を感じる方もいるのではないでしょうか。

そう考えると、これから自身の志望を考えていくにあたって、やはり最も重要なのは、自分自身の血の通った学問的な興味でしょう。

私は歴史書が好きでよく読みますが、「歴史とは現代と過去の間の対話である」（E．H．カー著『歴史とはなにか』）という言葉が示す通り、過去をどう捉えるかで現在社会の見え方が全く変わってしまう歴史という学問は、非常にエキサイティングです。
「教科書をがんばって暗記しなきゃ」という技術的な視点からのみでは、なかなか見えてきません。

志望についても同様なことが言えます。志望がまだ定まらないという方は、まずは勉強や読書を通じて、自分の学問的興味に向き合うところから始めてみましょう。

◆読書について

1学期中、高2生との面談で、「読書はした方が良いのか」といった相談を複数回、受けました。確かに、知見を広げたり、興味を深めていくのには、読書が一番手っ取り早いと思います。
ちなみに「学校読書調査」によると、月あたりの平均読書冊数は、小学生で約12冊、中学生で約5～6冊、高校生で1～2冊となっており、学年が上がり多忙になるにつき、読書量が減っていく傾向にあるようです。

高校生になると時間がないということもありますが、読書自体を勉強同様に、崇高なものと捉えすぎているきらいもあります。まずは気軽に、興味のありそうなテーマの本（小説でも、随筆でも、評論でも、何でも可）を手に取ってパラパラと読んでみる、あまりしっくり来なければ途中で読むのを止めてポンと投げ出しても良いと思います（それが歴史的名著だった場合、恐れ多いと感じるかもしれませんが）。

義務感からではなく、読書自体を楽しむ気持ちを忘れずにいることが、結果として興味を広げ、将来の志望を具体化することにも繋がってきます。

◆Z会の授業について

本科2期（9月2日～開講）より、物理（P2JR），化学（C2JR）、地理（G2）の授業が新たに開講しますが、Z会の授業でも、学問的な興味を重視した授業を行っています。受験対策として必要だから受講してほしい、という面はもちろんあるのですが、高2生の皆さんには物理や化学、地理といった学問の奥行きを授業をとおして感じてもらい、学ぶ意欲を持ってもらいたいと思います。それが日々忙しい中で、勉強する科目を増やし、学習時間を増やす何よりのモチベーションになるでしょう。

理科地歴といった勉強を本格始動していくにあたって、「化学よりも物理を先にやった方が良い」「世界史と日本史両方は大変だから、片方は地理が良い」といった様々な意見もありますが、 特に時間が限られている方は、自分にとって興味のある科目から先に手を出す、が正解です。

いわゆる一般的な受験の常識のみに縛られず、自分の気持ちに正直に向き合って、勉強のモチベーションを高めていってください。